



平成29年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年5月10日

上場会社名 株式会社 フジコー

上場取引所 東

コード番号 2405 URL <http://www.fujikoh-net.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 直人

問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 佐藤 陵枝

TEL 03-3841-5431

四半期報告書提出予定日 平成29年5月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年6月期第3四半期の連結業績(平成28年7月1日～平成29年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第3四半期	2,518	24.9	165	20.3	127	30.6	45	59.0
28年6月期第3四半期	2,016	5.3	208	24.6	184	19.4	111	9.0

(注) 包括利益 29年6月期第3四半期 102百万円 (8.9%) 28年6月期第3四半期 93百万円 (19.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第3四半期	10.41	
28年6月期第3四半期	28.75	28.72

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年6月期第3四半期	6,505	2,541	32.7
28年6月期	6,541	2,225	28.6

(参考) 自己資本 29年6月期第3四半期 2,127百万円 28年6月期 1,867百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期		5.00		5.00	10.00
29年6月期		6.00			
29年6月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年6月期の連結業績予想(平成28年7月1日～平成29年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,330	17.2	220	20.4	180	25.6	80	40.6	18.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年6月期3Q	4,541,000 株	28年6月期	3,891,000 株
期末自己株式数	29年6月期3Q	123 株	28年6月期	123 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年6月期3Q	4,396,432 株	28年6月期3Q	3,884,575 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、作成日現在において入手可能な情報に基づいて算定しております。今後の経済状況の変化により、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項について、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は平成29年2月3日に千葉県より「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第14条の3第1号の規定に基づき、平成29年2月8日から平成29年4月8日までの60日間、千葉県内の産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の事業停止処分を受けました。このような事態を招いたことを深く反省するとともに、関係者の皆様方に多大なるご迷惑、ご心配をお掛けしましたことを、改めて心よりお詫び申し上げます。

この度の事業停止処分は、当社の認識の欠如及び管理体制の不備が原因であり、今後はこのような事が断じて発生することの無いよう極めて厳粛に受け止め、『法令順守に関する研修強化』『施設改修に関する手続事項の確認』等を実施することにより、法令順守の一層の徹底と再発防止に取り組んでまいります。

なお、事業停止期間の経過により、4月10日から従前通りの業務を再開しておりますが、再開後は当社の予想を上回る持ち込みをいただいております。多くの取引先様に支えられていることに感謝するとともに、今後は全社一丸となり、一層安全・安心な処理事業の構築・運営を推進する事により、皆様からの早期の信頼回復とご期待に応えられるよう注力してまいります。

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間における取り組みは、既存事業において上記の行政処分により白井事業所につきましては、建設系リサイクル事業、収集運搬事業並びに解体工事も停止しておりましたので、各施設の塗装工事、清掃を徹底するとともに営業再開後の稼働に向けた営業活動に注力してまいりました。

また、新規事業であります森林発電事業につきましては、初めての冬季稼働となりましたが大きな問題も無く、順調に稼働してまいりました。電力小売事業につきましては、事業拡大に向け、近隣市町村の公共施設及び事業会社への営業活動を行うとともに一般家庭への電力販売開始に向けた準備活動に注力してまいりました。

これらの結果、売上高は2,518百万円(前年同期比24.9%増)となりました。

売上原価は2,176百万円(前年同期比37.7%増)となり、産業廃棄物処理事業の事業停止処分の影響により、売上総利益は第3四半期会計期間において21百万円減少し、341百万円(前年同期比21.6%減)となりました。

販売費及び一般管理費は175百万円(前年同期比22.7%減)となり、人件費、支払手数料並びに委託手数料が減少しておりますが、売上原価の増加により、営業利益は165百万円(前年同期比20.3%減)となり、森林発電事業の支払利息増加等により、経常利益は127百万円(前年同期比30.6%減)となりました。賃貸資産の売却及び設備の更新等により固定資産売却損及び除却損12百万円、食品リサイクル事業の見直しにより事業整理損18百万円を特別損失に計上したため、四半期純利益は102百万円(前年同期比8.9%増)、森林発電事業において、非支配株主に帰属する四半期純利益56百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は45百万円(前年同期比59.0%減)となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。

①建設系リサイクル事業

建設系リサイクル事業は、行政処分により第3四半期会計期間の大半を停止しておりましたので、焼却施設、発電施設並びにその他の施設の受入数量は、概ね前年同期比で23%~29%前後の減少となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,089百万円(前年同期比31.6%減)、売上原価は事業停止期間中に設備点検、補修工事等を行ったことにより978百万円(前年同期比17.0%減)となった結果、売上総利益は111百万円(前年同期比73.1%減)となりました。

②食品系リサイクル事業

食品系リサイクル事業は、この度の行政処分の対象外(一部を除き)となりましたが、事業停止期間中の産業廃棄物処分は堆肥化のみとなりました。その結果、液状化飼料の原料となる食品循環資源は一般廃棄物に限定となりましたので、販売数量が大幅に減少しております。また、従前より検討しておりました養豚事業について、液状化飼料の販売拡大という当初の目標が概ね達成できたことに加え、短期間ではありますが液状化飼料の出荷数量が半減することを契機に事業を譲渡しました。再資源化センターでの受入数量は、事業停止中は

産業廃棄物の受入を制限しておりましたが、累計では新規受入先の開拓に注力した結果、前年同期比で3.5%増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は174百万円（前年同期比7.5%減）、売上原価は153百万円（前年同期比14.8%減）となった結果、売上総利益は21百万円（前年同期比145.9%増）となりました。

③白蟻解体工事

白蟻解体工事は、解体工事につきましては産業廃棄物の収集運搬業が必要となるため、建設系リサイクル事業と同様に第3四半期会計期間は工事を停止しておりました。事業停止前は順調に推移しておりましたので、売上高は概ね前年同期と同額となりました。また、白蟻工事は各種キャンペーン等により、既存工事件数が増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は141百万円（前年同期比2.0%増）、売上原価は132百万円（前年同期比1.8%増）となった結果、売上総利益は8百万円（前年同期比5.2%増）となりました。

④森林発電事業

森林発電事業は、当第3四半期連結会計期間末で10ヶ月間の稼働となり、発電燃料の大敵である降雪期間の稼働を行いました。夏場は日射により購入木材が日々乾燥しておりますので、時間の経過とともに含水率が低減しますが、冬場は日射による乾燥が停滞するとともに降雪により燃料チップに雪が水分として混入します。その影響により、燃料使用量の増加とともに運転管理が困難となります。しかしながら、大きなトラブルの発生もなく、発電電力を一定に保ち安定した稼働を継続しております。発電燃料となる木材資源につきましては、地元製材工場の皆様、地域関係者の方々のご協力により、安定した調達を継続しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,113百万円（前年同期は96百万円の売上高）、売上原価は913百万円（前年同期は91百万円の売上原価）、売上総利益は200百万円（前年同期は4百万円の売上総利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて35百万円減少し、6,505百万円となりました。主な増減要因は次のとおりです。

流動資産については、公募増資及び借入等により現預金が628百万円増加しておりますが、一方、事業停止により売掛金が237百万円、還付消費税の受取により未収消費税が241百万円減少したこと等により前連結会計年度末に比べて166百万円増加し、1,603百万円となりました。固定資産については、減価償却等により前連結会計年度末に比べて201百万円減少し、4,902百万円となりました。

流動負債については借入金の返済、買掛金の減少等により、前連結会計年度末に比べて280百万円減少し、1,009百万円となりました。

固定負債については借入金の返済等により、前連結会計年度末に比べて70百万円減少し、2,954百万円となりました。

純資産については、公募増資及び利益計上等により、前連結会計年度末に比べて316百万円増加し、2,541百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月期の業績予想につきまして、売上高は、㈱フジコーで事業停止解除後の廃棄物受入売上が当初の弊社見込額よりも堅調に推移しておりますが、行政処分前の売上高と比較（平成28年10月-12月の平均売上高実績189百万円と平成29年5月-6月の平均売上高見込金額168百万円を比較）しますと月額20百万円前後の減額となる見通しであります。また事業停止中の売上高は計画金額から350百万円前後の減額となり、期初の想定を下回る見込みであります

利益につきましても㈱フジコーで売上高の減少により、営業利益は第3四半期連結会計期間（平成29年1月～3月）が期初計画比で207百万円の減額、第4四半期連結会計期間（平成29年4月～6月）も同87百万円前後の減額となる見通しであり、通期で290百万円前後の影響額（減額）となる見込みであります。また、事業整理損失及び固定資産売却損を計上したことにより、税金等調整前純利益が期初計画から大幅に減少する見込みであります。

なお、子会社の㈱一戸フォレストパワー等が行っております森林発電事業につきましては、売上、利益ともに計画通り堅調に推移する見通しであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	349,371	977,888
売掛金	463,601	226,386
たな卸資産	312,319	292,925
その他	312,619	106,105
貸倒引当金	△832	△133
流動資産合計	1,437,079	1,603,172
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,005,447	2,856,529
減価償却累計額	△920,078	△902,743
建物及び構築物(純額)	2,085,369	1,953,785
機械装置及び運搬具	4,488,702	4,531,447
減価償却累計額	△1,934,124	△2,160,399
機械装置及び運搬具(純額)	2,554,578	2,371,047
土地	231,995	271,166
その他	56,783	39,226
減価償却累計額	△45,760	△32,859
その他(純額)	11,023	6,367
有形固定資産合計	4,882,966	4,602,368
無形固定資産	4,672	15,329
投資その他の資産		
投資その他の資産	218,217	286,715
貸倒引当金	△1,910	△1,590
投資その他の資産合計	216,306	285,124
固定資産合計	5,103,946	4,902,822
資産合計	6,541,026	6,505,995

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	250,765	160,798
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	622,984	490,619
未払法人税等	59,516	22,421
賞与引当金	-	10,297
その他	156,979	125,496
流動負債合計	1,290,246	1,009,633
固定負債		
長期借入金	2,762,622	2,664,025
資産除去債務	109,320	109,548
その他	153,569	181,185
固定負債合計	3,025,512	2,954,759
負債合計	4,315,758	3,964,392
純資産の部		
株主資本		
資本金	499,470	629,873
資本剰余金	611,798	742,201
利益剰余金	756,486	755,552
自己株式	△59	△59
株主資本合計	1,867,695	2,127,567
非支配株主持分	357,571	414,035
純資産合計	2,225,267	2,541,602
負債純資産合計	6,541,026	6,505,995

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)
売上高	2,016,759	2,518,461
売上原価	1,581,067	2,176,792
売上総利益	435,692	341,669
販売費及び一般管理費	227,555	175,795
営業利益	208,136	165,873
営業外収益		
受取利息	152	23
受取家賃	5,850	5,367
施設運営収入	3,045	4,185
その他	4,706	2,732
営業外収益合計	13,754	12,309
営業外費用		
支払利息	25,006	28,290
支払手数料	8,000	8,669
株式交付費	-	8,855
その他	4,554	4,388
営業外費用合計	37,560	50,204
経常利益	184,330	127,978
特別利益		
固定資産売却益	2,021	92
特別利益合計	2,021	92
特別損失		
固定資産売却損	-	4,502
固定資産除却損	4,444	7,502
事業整理損	-	18,542
リース解約損	3,008	-
特別損失合計	7,452	30,546
税金等調整前四半期純利益	178,898	97,524
法人税、住民税及び事業税	69,783	23,435
法人税等調整額	15,355	△28,020
法人税等合計	85,139	△4,585
四半期純利益	93,759	102,110
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△17,940	56,344
親会社株主に帰属する四半期純利益	111,699	45,765

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)
四半期純利益	93,759	102,110
四半期包括利益	93,759	102,110
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	111,699	45,765
非支配株主に係る四半期包括利益	△17,940	56,344

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は平成28年9月5日を払込期日とする公募による新株式発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ114,353千円増加しております。また、平成28年9月20日を払込期日とする第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに伴う第三者割当)による新株式発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ16,049千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ130,403千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が629,873千円、資本剰余金が742,201千円となっております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	建設系 リサイクル 事業	食品系 リサイクル 事業	白蟻解体 工事	森林発電 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,593,029	188,696	138,340	96,692	2,016,759	-	2,016,759
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,593,029	188,696	138,340	96,692	2,016,759	-	2,016,759
セグメント利益又は 損失(△)	414,464	8,547	7,985	△39,452	391,545	△183,409	208,136

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△183,409千円は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	建設系 リサイクル 事業	食品系 リサイクル 事業	白蟻解体 工事	森林発電 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,089,466	174,531	141,111	1,113,352	2,518,461	-	2,518,461
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,089,466	174,531	141,111	1,113,352	2,518,461	-	2,518,461
セグメント利益	111,353	21,016	8,403	184,727	325,500	△159,626	165,873

(注) 1. セグメント利益調整額△159,626千円は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。